ISSN 0919-4657

KONC

関西自然保護機構会報

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

17巻2号（通算30号）

シンポジウム●阪神淡路大震災と自然保護



1995年12月
関西自然保護機構

表紙の言葉

地震断層（Fault associated with earthquake）　　升本眞二

兵庫県南部地震（1995年１月17日午前５時46分，マグニチュード7.2）は阪神地域と淡路島北部に多大なる被害を与え，淡路北部から神戸市，芦屋市，西宮市，宝塚市にかけての地域ではついに震度７が記録されるに至った。この地震に伴い淡路島北部では地震断層が出現した。

この地震断層は，淡路島の北西部に位置する活断層として知られていた野島断層の全域と，さらに南西部に延長した地域まで確認されている。断層の変位は基本的に断層の東側が隆起した成分を持つ右横ずれで（右横ずれとは断層をまたいで立った時に，右手側の部分が手前に近づくように移動しているもの），その変位量は１～２ｍである。野島断層は1974年に藤田和夫先生（大阪市立大学名誉教授）により，淡路島を隆起させた逆断層として命名された活断層である。その後，通産省工業技術院地質調査所の詳細な地質図幅調査により，東側隆起と右横ずれの変位が確認され報告されていた。その報告は，今回の地震断層の変位のセンスとほぼ同じであった。

表紙の写真は淡路島野島江崎地域において，この地震断層を斜めから撮影した空中写真である。一般的に空中写真は約23cm×23cmのフィルムを用いて，飛行機から鉛直方向に重複率約60%で撮影される。重複するそれぞれ２枚の写真を用いて立体視することにより，写真測量や地形の観察などができるようになっている。しかし，断層変位などを１枚で観察する場合はその横ずれの変位はわかるが，鉛直方向の変位等はわかりにくい。表紙の写真は斜めから撮影することにより，１枚で断層の鉛直方向の変位までがはっきりわかる貴重な写真である。写真は地震断層と直交する北西方向から撮影されたものであり，全体として地震断層が階段状の田を右横ずれさせ，山側（東側）を相対的に隆起させていることがわかる。さらに，この写真を詳細にみると，地震断層は１枚の面として明瞭に地表面を切断しているのではなく，やわらかい田の表面は全体としてたわみ（撓曲），雁行配列した開口亀裂の連続として観察されることがわかる（写真提供：国際航業㈱）。

関西自然保護機構（ＫＯＮＣ：Kansai Organization for Nature Conservation）

ＫＯＮＣはなんらかの形で，専門家として自然環境保護にかかわる人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978年に創立されました。

ＫＯＮＣはその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現代，次のような活動をしています。

１．　基礎研究の実施
２．　シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
３．　現地見学会の開催
４．　研究助成金の交付
５．　会報・連絡紙の発行
６．　自然保護に関する基礎資料の収集と配付
７．　自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
８．　国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・推持会員の会費により，まかなわれています。